

多様性 コミュニティ
 太陽光発電 循環性 エコシティー ICT
 柔軟性 サスティナビリティ
 アウター空間 防災都市
 スマートグリッド
安全
 コンパクトシティー 共存 人口減少
ネットワーク ECO
 公衆無線LAN 歩行圏
スケール 歩行圏 少子高齢化社会
 中野駅周辺まちづくりアイデア募集

■中野4丁目地区

中野駅北口正面には、中野のイメージリーダーとして、新しい「中野サンプラザ」を配置します。イベント、コンサート等の機能を再強化し、商業、業務、宿泊施設を集積させ、新しい中野の拠点と位置づけます。警察大学校等跡地の広大な緑地は、都市のオープンスペースとして、都市生活者の憩いの場となるだけでなく、広域避難場所として、災害発生時から復興までの拠点となるエリアでもあります。この広大な緑地とECO重視のまちづくりの推進は、環境問題に意識の高いグリーンブランド企業の誘致を促進させるなど、新しい時代を先導します。



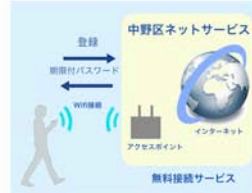
新中野サンプラザ

環境 / ECO / 防災都市 / オープンスペース / グリーンブランド



■中野5丁目地区

物販、飲食、娯楽が高密度に集積し、多様な人達が集うこのエリアは、世界に知られるサブカルチャーの聖地でもあります。しかし、開発が人の流れを変え、一般の人が通ざることが起れば、このエリアが都市の暗部に変わってしまう危険性があることを注意する必要があります。そこで、このエリアへのアプローチを容易にし、回避導線を設定することを対策として提案します。

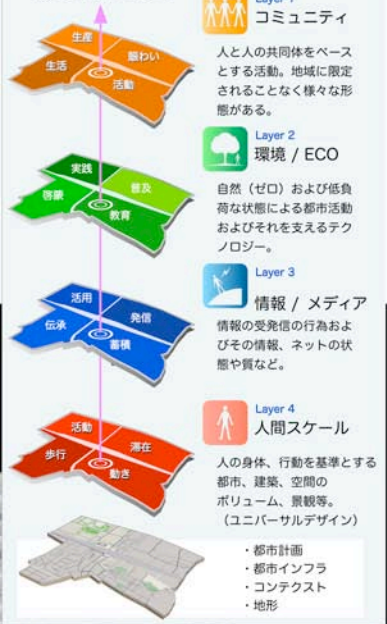


このエリアの持つ情報を活用し、イベント等により情報発信することで、サブカルチャーの観光化を進めます。また、海外からの来訪者対応として、公衆無線LAN（登録制・期限付き無料）を提供することで、情報発信の相乗効果を生み出します。

Mixed Use / サブカルチャー / イベント / ネットワーク



タウンマネジメント



○中野の可能性
 中野駅周辺は、再開発の進む中野4丁目地区、サンモール・ブロードウェイのある中野5丁目地区、住宅街の中野3丁目地区、文化ゾーンを有し今後開発される中野2丁目地区と、その結末点となる中野駅地区で構成されています。このまちの最大の特徴は、この4つのエリアが独特の顔を持ち、それらが歩行可能なエリアに共存していることです。

○都市づくりの課題
 世界の都市は、大量生産大量消費を前提とする拡張型都市開発から、環境、エネルギー制御に配慮しながら、人の活力と地域コミュニティにもとづくコンパクトな都市づくりを模索しています。

■中野3丁目地区

住宅街が高円寺まで広がるこのエリアは、小劇場やパールの出現で歩行者が増え、防災上改善が必要な細街路が、人と人の出会いを生み出す街の大きな魅力となっています。そこで、このエリアの通過交通を制御し、子供から高齢者まで安心して歩ける歩行者優先エリアとすることを提案します。

街中ではアート展等を行い、生活とアートが融合し、芸人、アーティストや、SOHO事業者等が集う街を目指します。
 (参考：直島 家プロジェクト)



生活 / 歩行者 / 街アート / アーティスト / 街路



■中野駅地区

中野を南北に分断してきた中野駅は、この計画において、4つのエリアの交点に位置します。そこで、線路敷地の上空を緑地公園として開放し視線、風、光を通させます。

北口広場には、サンプラザ、サンモール、警大跡地、田町の各エリアを繋ぐペDESTリアンデッキを設けています。

南口広場では、2丁目再開発計画を2丁目のゲート（入口）と位置づけ、空中歩廊によって、3丁目及び北口から2丁目へのアクセスを接続します。



駅南口広場

交点 / 開放空地 / ペDESTリアンデッキ / 空中歩廊



■中野2丁目地区

中野2丁目地区東側には、なかのゼロ、新体育館等の「文化・スポーツ」施設に加え、広大なJR用地開発の可能性がります。

2丁目地区では、駅南口広場開発に合わせて、千光前通りと周辺街区が連携し、東側エリアに人を誘因することが重要です。

南口広場に面する2丁目再開発計画は、2丁目地区のゲートとして背後の街路に人を誘因し、アクティビティ空間としての街路が駅東側エリアを結びます。



アクティビティ / 文化 / パフォーマンス / ストリート

